

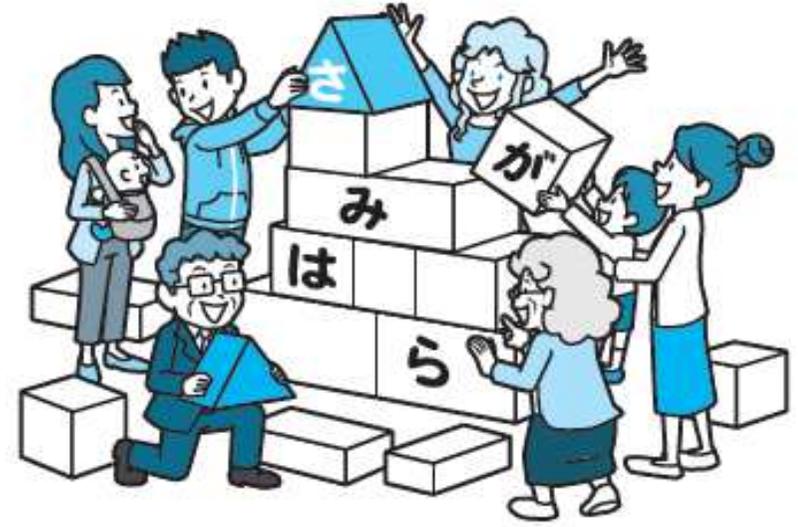
# 市民参加事業について (第5回総合計画審議会用資料)

# 1 市民参加事業について

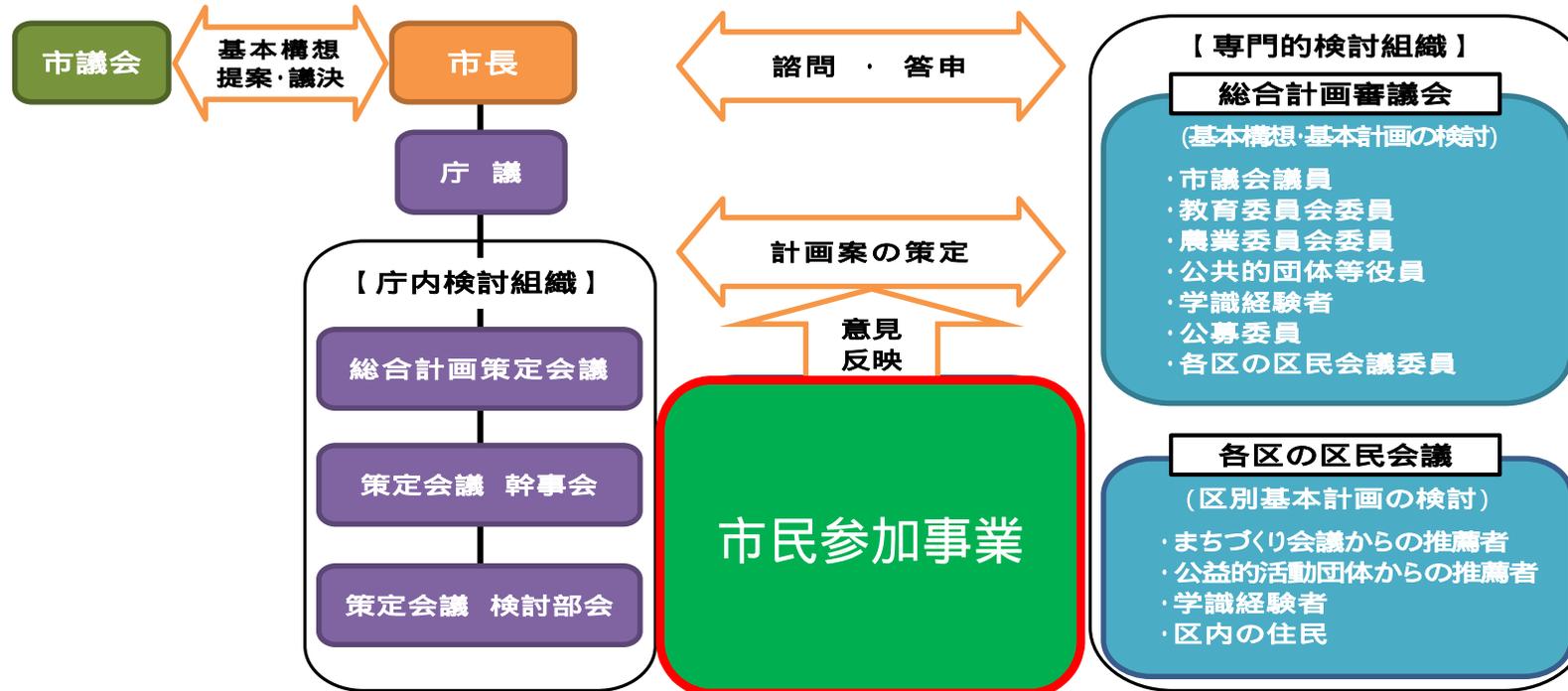
## 【目的】

次期総合計画策定に当たり、多様な手法により市民参加機会を確保し、幅広い市民の意見を反映させることを目的とする。

また、これらの取組を通じて、市政への関心や意識の高揚を図る。



## 【成果の反映】



## 【既に実施済みの事業】

	事業名	実施時期	概要
1	市民アンケート	平成29年10月	市民(3,000人)を無作為により抽出し、アンケートを実施
2	大学生アンケート	〃年10月	市と包括連携協定を締結している8大学の学生(1,500人程度)を対象に、アンケートを実施
3	中高生アンケート	平成30年1月	若者ジュニア市政モニター(400人程度)の中高生を対象に、アンケートを実施
4	シンポジウム	〃年7月27日	「未来のさがみはら」について市民とともに考える機会として、基調講演やパネルディスカッションを実施
5	市政を語る会(働く若者)	〃年8月7日	「ずっと住みたくなるまちづくり」をテーマに、結婚、出産、住宅購入などの人生の転換期を迎える世代である「働く若者」と意見交換を実施
6	外国人市民との意見交換会	〃年8月10日	「誰もが住みやすいさがみはらとなるために」をテーマに外国人市民との意見交換を実施

## 【既に実施済みの事業】

	事業名	実施時期	概要
7	区民討議会	平成30年8月18日、 19日	市民(4,000人)を無作為により抽出し、応募のあった者で(定員各区30人)2日間に渡り、まちづくり全般に関するワークショップを実施

## 【既に実施済みの事業】(その他の取組)

	事業名	実施時期	概要
1	若手職員ワークショップ	平成30年6月13日	採用2年目から6年目の職員を対象に、総合計画の概要、相模原市の現状について研修をした後、総合計画に関するワークショップを開催

## 【実施中、今後実施する事業】

	事業名	実施時期	概要
1	まちづくり会議	平成30年5月～11月	各地区まちづくり会議において、地域別計画の振り返りをするとともに、各地区の課題と対応方策について検討する
2	市政を語る会（子育て世代）	〃年10月24日	「安心して子どもを産み育てられるまちづくり」をテーマに、未就学の児童を持つ親等と意見交換を行う
3	働く女性を応援する企業との懇話会	〃年10月24日	女性が自らの意思において職業生活を営み、その個性と能力を十分発揮することができる社会を目指し、女性活躍の推進に積極的に取り組む企業との懇話会を開催する
4	大学生等によるフィールドワーク	〃年6月～11月	市内大学の大学生が主体となり、まちづくりに関する様々なテーマについて、関連する企業やNPO法人、施設等を訪問し、フィールドワーク（野外活動）を実施する
5	パブリックコメント	〃年3月（基本構想） 〃年12月（基本計画）	基本構想と基本計画について、趣旨、目的、内容等を公表し、広く市民等から意見及び情報を求める（オープンハウス等の活用も検討する）

## 2 実施報告

### 【市民アンケート】

実施時期 平成29年10月

#### 目的

幅広い市民の意識や意向を把握し、計画策定の基礎資料とすること

#### 対象者

無作為に抽出した市民3,000人  
(うち回答 1,635人 54.5%)

#### 内容と成果

##### 「現在の暮らしの満足度」

・市民の現在の暮らしへの満足度は、71.9%で7割を超えている。なお、現総合計画策定時に実施したアンケート調査では、暮らしの満足度は、64.4%であったことから、暮らしの満足度は、上昇していた

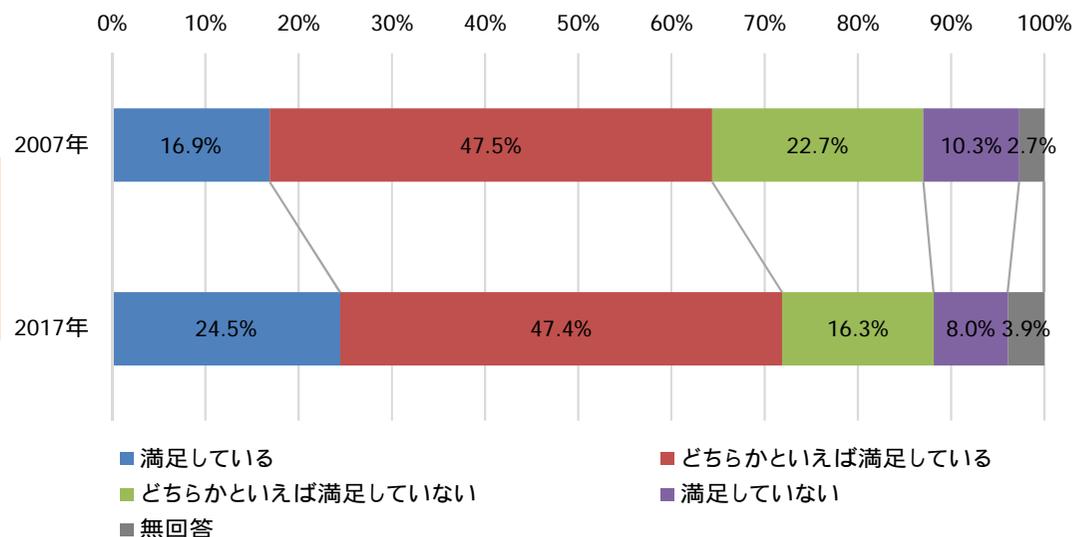
##### 「今後の居留意向」

・現在の地域への居留意向は、81.9%で8割を超えていた

##### 「今後特に力を入れてほしいこと」

・市に対して、今後、特に力を入れてほしいことは、「高齢者福祉」が44.2%で最も高く、次いで「公共交通」が24.3%、「子育て支援」が22.9%となっていた。なお、年齢階層別では、10歳代～30歳代は、「子育て支援」が一番高く、40歳以上は、「高齢者福祉」が一番高くなっていた

現在の暮らしの満足度の経年比較(SA)



# 【大学生アンケート】

実施時期 平成29年10月

## 目的

次代を担う若者の定住や就職に対する意識を把握し、計画策定の基礎資料とすること

## 対象者

包括連携協定を締結している8大学の学生  
回答 1,495人

## 内容と成果

### 「大学卒業後の相模原市へ定住意向」

・大学卒業後の相模原市への定住意向は、20.7%であった。なお、高校以前より相模原市に住んでいる学生の定住意向は、68.3%と、約7割の学生が卒業後も相模原市へ住み続けたいと考えていた

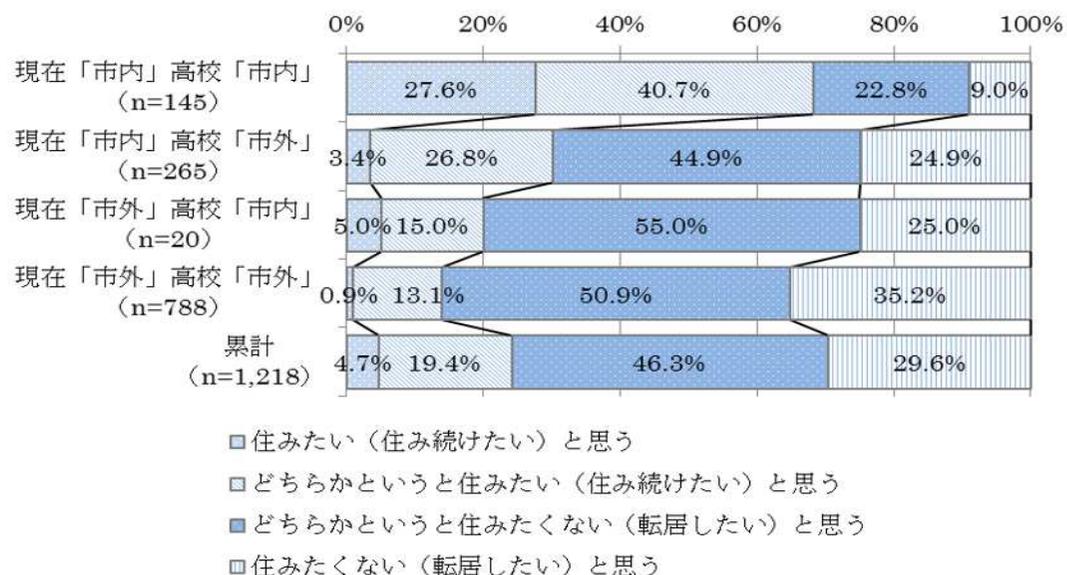
### 「住みたくない（転居したい）と思う理由」

・大学卒業後に相模原市に住みたくない（転居したい）と回答した人の理由については、「交通の便が悪いから」が40.4%と最も高く、次いで「地元やその近くで生活したいから」が31.6%、「近くに適当な職場がないから」が18.2%となった

### 「希望する勤務地」

・大学卒業後に最も希望する勤務地として、相模原市と回答した人は、6.7%であったが、希望する勤務地としての候補に相模原市が含まれるかということについては、29.0%の学生が含まれるとの結果となった

大学卒業後の居留意向と現在・高校通学時の住まいのクロス集計  
(グラフ)



# 【中高生アンケート】

実施時期 平成30年1月

## 目的

次代を担う若者の意識を把握し、計画策定の基礎資料とすること

## 対象者

ジュニア・市政モニターに登録している市内の  
中学校・高校の学生 425人  
(うち回答 212人 49.9%)

## 内容と成果

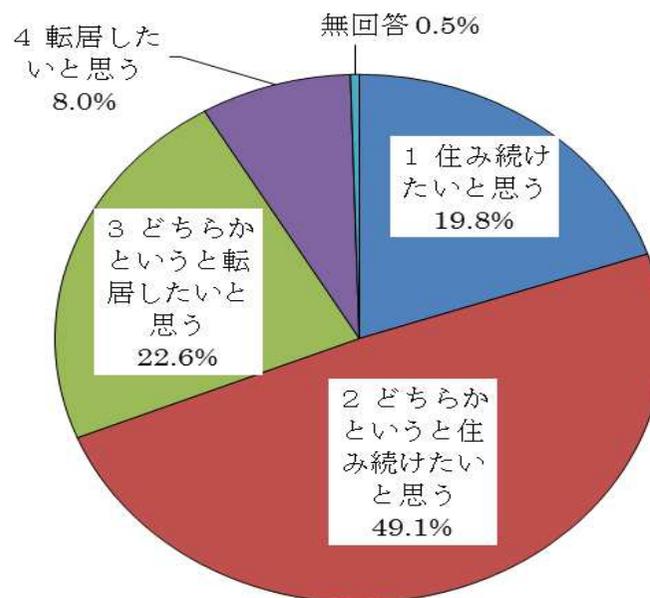
### 「相模原市への将来の居住意向」

・将来の居住意向については、68.9%が将来も相模原市に住み続けたいとの結果であった。住み続けたい理由として、自然環境の良さや交通の便の良さ、地元への愛着などがあげられた一方で、転居したいと回答した学生の理由としては、交通の便の悪さ、治安の悪さ、都心など他の地域に住みたいなどがあげられていた

### 「今後特に力を入れてほしいこと」

・市に対して、今後、特に力を入れてほしいことは、「公共交通」が23.6%で最も高く、次いで「学校教育」が23.1%、「防犯・交通安全」が20.8%となっていた

将来の相模原市への居住意向



# 【若手職員ワークショップ】

**開催日時** 平成30年6月13日(水) 9時~17時

**場所** 職員研修所 大研修室

## 目的

本市の将来のまちづくりを担う若手職員の自由な発想により、まちづくりに関するアイデアを提案してもらうこと

**対象者** 採用2年目から6年目の職員

**参加者** 30人

## 内容

- ・参加者に対して、総合計画の概要、相模原市の現状について説明後、「子ども・教育」「共生・健康」「安全・安心」「活力」「交流」「環境」の6つのテーマごとにグループを分け、ワークショップを実施
- ・「テーマごとの良いところ」「分野ごとの施策・事業」「政策の基本方向、基本目標」「10年後のニュース」「都市像」について、グループワークを実施
- ・最後にグループワーク結果を全体で発表。また、全体で投票を行い、1つの都市像を選定

## 成果

- ・若手職員ならではの、施策、政策の基本方向、基本目標や都市像に関するフレーズ、考え方、視点、タイトル等を抽出できた
- ・相模原市総合計画の概要や策定過程について学び、若手職員の総合計画に対する意識の醸成が図れた

# 【シンポジウム】

## 開催日時

平成30年7月27日（金） 19時～21時半

## 場所

杜のホールはしもと ホール

## 目的

「未来のさがみはら」について市民とともに考える機会とするとともに、市民の市政に対する意識の高揚を図ること

## 対象者

特に制限なし

## 参加者

327名

## 内容

### 寺島実郎氏（多摩大学学長）による基調講演

- ・リニアと圏央道がリンクし、物流と人流が繋がる地域である相模原は、日本の将来にとって重要な意義がある
- ・高齢者に社会的に意味のある形で参画・貢献してもらうプログラムを構築していくことが重要である

### パネルディスカッションにおける意見

- ・住民が自ら地域社会を作っていく体制づくりが必要
- ・高齢者が地域づくりに参画していくことが重要
- ・政策の優先順位を付けていくことが重要

## 成果

- ・リニア中央新幹線の駅の設置や圏央道の開通など、本市がポテンシャルを生かして発展していくための知見を得ることができた
- ・高齢化が進行する中でのまちづくりの方向性に関する知見を得ることができた
- ・本市の抱える課題やまちづくりに対する思いなどを参加者と共有することができた

# 【市政を語る会（働く若者）】

**開催日時** 平成30年8月7日（火） 18時半～20時

**場所** 市役所本庁舎 第1特別会議室

## 目的

若い世代に定住してもらえるまちづくりを進めるため、結婚、出産、住宅購入などの人生の転換期を迎える世代である「働く若者」の意見を把握すること

**対象者** 市内在勤の20代～30代の若者

**参加者** 8名

## 内容

- ・市内で働く26～35歳の男女44人から回答のあったアンケート結果について説明後、参加者が自身のアンケート回答内容及び相模原が若者にとって「ずっと住み続けたいまち」になるための方策を、説明してもらう形式で実施
- ・参加者が説明を終えた後、市長と参加者との意見交換が行われ、参加者からの積極的な質問に対し市長が回答

## 成果

- ・若者が本市のどのような部分を魅力と感じているか、またどのような部分に不便や課題を感じているかについて、若者の意見を把握することができた
- ・人口減少や少子高齢化の進行が見込まれる中、若者に本市に定住してもらうことが大変重要であり、そのための方策について知見を得ることができた

# 【外国人市民との意見交換会】

## 開催日時

平成30年8月10日(金) 19時~20時半

## 場所

大野北公民館

## 目的

外国人市民が普段の生活において、不便に感じていることなどを汲み上げること

## 対象者

市内在住の外国人市民  
(中国、韓国、台湾、フィリピン、ペルー、カンボジア)

## 参加者

6名

## 内容

- ・意見交換は、「誰もが住みやすさがみはらとなるために」をテーマとして、外国人市民が、普段生活している中で感じている不便や困りごとについて質問や提案を行い、それに対して市側が回答する形式実施
- ・「教育」、「雇用」、「観光」、「防災」など多岐にわたる分野について意見交換を実施

## 成果

- ・市内でも外国人市民が増加しており、そうした外国人市民の意見を把握することができた
- ・外国人市民を含めたすべての市民が住みやすい相模原となるための方向性について共有することができた

# 【区民討議会】

**開催日時** 平成30年8月18日・19日 10時～17時

**場所** 相模原市民会館3階 第一大会議室

## 目的

- ・ 普段市政に参加していない層の意見を汲み上げること
- ・ 区ごとの現状やニーズを把握すること

## 対象者

無作為抽出（18歳以上）した4,000人から応募のあった者

## 内容

- ・ 「安全・安心」「共生・健康」「環境」「子ども・教育」「活力・交流」「各区の将来像」の6つの討議テーマを設定し、それぞれの課題と解決に向けて取り組むべきことを、順に討議
- ・ 区ごとに4～5のグループに分け、討議テーマに関する情報を市から提供した後、「課題」、「解決に向けて取り組むべきこと」について、グループワークを実施
- ・ 区ごとにグループワーク結果の発表を行い、投票により、重要な課題に向けて取り組むべきことを選定
- ・ 最後の討議テーマ「各区の将来像」については全体で発表し、全体で共有

## 参加者

	緑区	中央区	南区	合計（人）
1日目	19	27	24	70
2日目	19	25	24	68

## 成果

- ・ 普段市政に積極的に参加していない方々のまちづくり全般に関する意見を抽出することができた
- ・ 下は10代、上は80代と、幅広い世代間で討議したことにより、多様な視点での意見抽出ができた
- ・ 区ごとにグループを分けて実施したことにより、それぞれの区の課題や求められていることなどを把握できた

# 3 今後の市民参加事業について

## 【検討する上での視点】

- ・現状の市民参加事業は、幅広い市民の意見を聴取していくことを目的に、多様な手法により市民参加機会を確保しているが、多くの事業で、あらかじめ対象者（特定の分野に関わりがある人や無作為抽出）を絞って実施しているため、**市民の誰もが自由に参加し、意見を述べる機会**としての市民参加事業を実施する必要がある。
- ・基本構想に掲げたまちづくりのビジョンや理念についてと共有し、より一層**市民の市政への関心や総合計画に関する意識の高揚を図る**ための取組を行う必要がある。



## 【市民参加事業例】

- ・市内公共施設や商業施設等にブースを設け、当日訪問している市民に、パネルなどにより情報提供後、直接意見を聞く手法（オープンハウスなど）
- ・市民の市政への関心や総合計画に関する意識の高揚を図る取組（シンポジウムなど）
- ・市民の総合計画への理解を深める取組（出前講座など）